

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	サポートハウス東名ながくて
(ユニット名)	1ユニット目
所在地 (県・市町村名)	愛知県愛知郡長久手町平池406
記入者名 (管理者)	江端紀子
記入日	平成 19 年 5 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	今後も利用者のペースを大切にしながら、理念を共有していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後とも継続していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	一方向の関わりだけではなく、家族の方々や地域の方々から頂いた意見も今後につなげたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	清掃、行事等を通し、今後とも地域の方々との接点を大切にしていこう。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	まだグループホームがどのような場か知らない方が多い。地域活動を通してグループホーム(及びサポートハウス東名ながくて)がどのような所であるのか知って頂きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩やゴミ出し等で地域の高齢の方が利用者と触れ合う機会を作り、友人のように話せる関係を作っている。その関係に職員が関わり、何か出来ることはないか模索している。	○	地域の清掃活動出来る範囲で貢献していきたい、又、子供達が自由に訪問して利用者と遊んだり出来るよう取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価についての意義は職員全員十分理解している。又、評価を活かし、改善についてはみんなで話し合い取り組んでいる。	○	改善点にすぐに対応できるようこれまで以上に柔軟な態勢で臨みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容、又、出席下さる方々のメンバーについても会議毎に検討し積極的に意見、助言をいただきサービスの向上に活かしている。	○	事業方針にご賛同くださる方の意見のみでなく、厳しい意見を下さる方もいらっしゃるの、そのような意見を真摯に受け止め、対応していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者との行き来の機会は多くあり意見をきく、指導を受ける、相談をする、施設の現状をよく報告する等して、それがサービスの質の向上に向けるものであるよう努めている。	○	町役場を含め、さらに連絡を密にして良いサービスを追求していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	情報を求められたら制度についてよく説明し、必要な人に活用出来るよう支援している。	○	常に新しい制度に対応できるよう、情報のアンテナを張り巡らせていきたい。管理者・職員の隔たりなしに、基本的な制度のことに関しては、皆で情報を共有したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならない事と職員全員よく理解し、どのような時も防止に努めている。	○	虐待について特に徹底した指導を行っているが、今後とも継続して防止に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ時はグループホームに適した対象者であるか十分に検討する、又、契約、解約時には十分な説明を行った上で、納得のいくよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>医療関係や食事等、利用者や家族の細かな問題点にすぐに答えられるよう、今後とも心掛けていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の家族、知人が施設訪問時に、又、職員に訴えてきた事に対しては、利用者により方向になるように反映させている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が不満を溜め込むことの無いような環境作りをより一層心掛ける。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月サポートハウス通信を配布している。利用者の生活ぶり、ホームの様子がよくわかるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>職員一人一人がきめ細やかな報告を行えるよう、徹底していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談や不満、苦情を受け入れる窓口・職員を明確に設けている。又、気軽に相談出来るよう伝え連絡している。</p>	<p>○</p> <p>意見をすぐに反映出来るような体制を整えていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全体会議で日常の運営の中で職員の自由な発言、意見をよく聞き反映させている。</p>	<p>○</p> <p>職員が発案しやすい環境の維持に努めたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に柔軟に対応出来るよう勤務調整出来るようになっている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が家族からの要望を反映するのみならず、職員一人一人に対して勤務調整に関する説明を怠らないように、事業所内の連絡もさらに徹底させていく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者のダメージを防ぐ配慮をした異動をしている。</p>	<p>○</p> <p>3施設間の行事等を利用し、どの職員とも顔馴染みでいられるような状況を今後も心掛ける。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は段階に応じ随時受けさせている。場合によっては職員に参加を募り、学びの窓口を広げている。また施設内でも新人研修他、随時行い実践につながる指導を取り入れている。職員がスキルアップをしやすいうように、資格取得制度も設けている。	○ 一般職員でも向上心が高い者には進んで研修を受けさせる体制を取る等促していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの施設の場で課題を決めて勉強会を開き意見を交換しあい、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○ 長久手町グループホーム勉強会や地域意見交換会を今後さらに有効活用していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦の為、旅行、食事会を開催しストレス解消の方策を取り入れたり外部者との接する機会を設けたり悩みを聞く場を設けたりしてストレス軽減に取り組んでいる。	○ 今後も職員が自発的に悩みを打ち明けられるような環境を整え、続けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望者に対して資格取得の為の支援、金銭援助支援がある。又、常に研修への機会を設け、意欲ある者には学ぶ機会を設けている。	○ 職員が研修や勉強会等を通じ、常に目標を持って仕事ができるような職場環境を維持したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	安心した信頼関係が保たれるよう不安に思っていること、困っていることについてよく話をきくよう努めている。	○ 本人の生活の質を向上させる為、何がその人にとって必要なことかを初期段階から掴むよう、今後とも取り組みを行っていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が安心して相談して下さるようよく聴く、又、受けとめる事によって信頼関係を保つようにしている。	○ 家族の不満、不安に思っていることを解消することが、今後の円滑なコミュニケーションにつながっていく。一時もそれを忘れないよう心掛けていくこと。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかよく話を聴く為にも気軽に訪問していただけるような対応をしている。	○	どのようなニーズにも対応出来るよう、常に柔軟な姿勢を心掛けていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の生活に慣れるまで家庭での生育期から老年期までに経験してきた事を基盤にして徐々に馴染んでいただけるようにしている。	○	見学等の機会を有効活用し、施設が行っているサービスがどのようなものであるか、利用者や家族に更に関心を持って頂く体制を取っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事労働、遊びを共に過ごす事によって一つの家庭的雰囲気の中で生活できるよう気配りして利用者から学んだりして関係づくりをしている。	○	調理や園芸、テレビ観賞等の機会を通し、利用者とコミュニケーションを計りながら、彼らから知識を得る関係を今後も大切にしていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を家族と職員と一緒に支える事は大切な事なので常に連絡を取り、施設でどのような生活をしているかを家族にこまめに報告している。定期的な行事には参加を求め、共に楽しむ場を積極的に作っている。	○	頻りに施設に見える家族だけでなく、仕事等で来られない家族にも連絡が密に出来るような体制を心掛けている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の良い関係を築きあげてきた事をこわさぬよう支援している。	○	利用者や家族との会話の中で、これまでの状況を掴みとるよう、今後も努力していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの生活が出来るよう使いなれた家具、日用品等で居室づくりをしている。	○	本人が馴染みの人や場所を想起するような環境作りを心掛けている。今後とも行っていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	運動、共同作業、遊びを通して、明るく楽しく、利用者同士が関わりあっているよう職員一人一人取り組んでいる。	○	今後も取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて気軽に訪問していただけるよう退室後もサポートハウス通信を発送したりしている。	○	今後とも行っていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族から本人の希望や意向を聞きとり、少しでも希望に沿うよう努めている。	○	その都度、本人に細やかな気配りをし、意向を見落とさないよう心掛ける。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、本人の大切な経験等の記録をアセスメント表にまとめ職員全員把握に努めている。	○	職員の一人でも把握していない者がいないよう、今後とも徹底していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の人格を尊重し、その人に合った生活が出来るように把握しつつ、その日々の心身状態を観察して1日の過ごし方を決めている。	○	現状その人がどういう状態にあるのか質問されたら即座に答えられるよう、職員一人一人に徹底していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	24時間記録している。 個人記録を基に職員全体で、又、家族で話し合っ立てている。	○	長期目標と短期目標、それぞれに向けたケアのあり方を常に模索していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは毎月実施変更の必要があれば家族本人と詰め合い、同意を得て見直している。	○	見直しに促して利用者、家族から新たな要望が出た時は、それを反映しやすいように心掛ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間、個別ケアの記録をして、介護計画見直しの時活かしている。	○	今後とも行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、本人の要望を聞き応じた柔軟な支援をしている。家族の施設訪問時に話し合う機会を多くつくっている。	○	本人や家族の希望が反映されやすい環境作りに今後とも取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のグループホームとの勉強会を通じて地域資源との関係づくりをして協力体制を築いている。	○	地域密着型サービスの利点を上手く引き出し、事業を行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の希望を取り入れ、他のサービス利用は必要に応じて支援している。	○	本人の希望を見落とさないよう心掛ける。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じてセンターと協働している。	○	今後ともより良い関係を築いていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、本人の関係を重視し、希望の医療への受診は自由に出来る支援をしている。	○	ご家族とかかりつけ医の連絡が円滑に行くよう、今後とも心掛けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携して相談治療を受けられるよう支援している。	○	利用者本人、職員が不安に思うことを解消出来るような体制作りを心掛ける。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週一回定期健診に訪れる看護職と健康管理について相談したり、必要に応じてファックス、電話等利用して相談している。	○	今後とも連絡を密に行い、報告や相談をしていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、早期退院に向けた話し合いや協力を医療関係者としている。	○	医療機関とは日報等利用し、最大限の情報提供や交換を行っているが、利用者や家族が不安にならないような精神的なケアもこれまで以上に行う。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けて繰り返し医師と話し合い、全職員で方針を共有している。	○	ターミナルケアに関わった職員の意見も参考にして方針を定めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に向けて家族と文章にて取りかわし、尚、変化に備えて家族、主治医、施設がチームとなって連携して行動が取れるようにしている。	○	利用者から最期に「ありがとう」と言ってもらえるような、最善のケアを行っていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の気持ちに不安感を起こさせない事を最優先に努めている。	○	情報交換はもちろんのこと、本人がどのような状況を望んでいるかを住み替えの際にも常に把握する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者の気持ちを優先によく話を聞く、声の大きさ、又、声かけの姿勢に配慮している、記録等個人情報に関する書類は定位置に保管している。	○ 利用者の今現在の状況に常に注目する。個人情報保護については今後とも徹底する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人が自分で希望を表すことを大切に選べる場面づくりを日常的に行っている。	○ 利用者の言葉、動作、表情等に常に注目し、見落としや聞き漏らしが無いよう、日頃から気を配っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人一人一人が自分のペースを保ちながら暮らせるよう支えている。	○ 利用者の残存能力を大切に、出来ない所があれば、干渉し過ぎない程度に助ける等、利用者の自発性を高めるケアを行う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者一人一人の希望を聞きそれに合わせた服装選び、馴染みの美容院によるカットを支援している。	○ 自発性を尊重し、利用者が自分らしさを失わないような配慮をする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者も同じ食事を同じテーブルについて摂り、食事づくりは利用者の意見を取り入れ一緒に買い物に行き、作っている。片付けも一緒に実施している。	○ 利用者同士が助け合い、料理を作る等、食事を通じて同居人とのコミュニケーションが計れるような場面をもっと作りたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を聞き、時に一緒におやつやジュースを作ったりして楽しめるよう支援している。	○ 職員同士で情報交換する等し、個々の利用者の嗜好についての把握を深める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄、排泄の自立を目標にスタッフ全員が取り組んでいる。排泄パターンを知る為の表、習慣を活かし排泄出来るよう支援している。	○	利用者一人一人の排泄パターンから周期を読み取り、職員がそれに応じたケアを行っていきけるよう今後とも気をつける。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数、時間帯、入浴のしかた(入浴の長さ)等本人の希望を聞きとり、ゆったりと楽しんで入浴出来る環境づくりをしている。	○	入浴前に声掛け等を行い、気持ち良く入浴出来る体制は整えているが、あくまで利用者の意思を尊重する支援は今後も変わらず継続していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人一人の睡眠パターンを把握し、又、眠れない利用者の生活リズムづくりを通して安心した眠り休息をとれるよう支援している。	○	入眠前に利用者がリラックスできるよう、談話やテレビ観賞の時間を有効活用していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生まれてからそれまでの生活歴、本人にとって大切な経験を知り、喜びを感じたり、それを活かして楽しめるよう支援している。	○	これまで通り、利用者の自尊心を大切に、それに応じたケアをしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を本人が行えるよう支援し、利用者一人一人の力量に応じた支援をしている。	○	今後とも個々の支払能力に応じた支援をしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出での畑仕事、近隣の公園への散歩、その日その日に希望を聞き戸外へ出掛ける機会を天候を気にせず実施している。	○	同じ法人の他の2施設と合同で買い物をしに行く等、大勢で行動する機会を取り入れる等、より一層の支援を行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を聞き(行きたい場所、観たい事)家族、他の施設の人と一緒に外へ出掛ける機会をつくっている。	○	行事をこれまで以上に有効活用し、機会作りに励みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には本人自ら電話をすることが出来る手紙の投函はポストにまで自らの手で出来るよう支援している。	○	職員一人一人が利用者と外部の方々との関係を支援出来るよう、心掛けていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問は時間制限なく、24時間可能で、訪問時ゆったりと過ごせる空間を提供している。	○	今後とも誰にとっても「ゆっくり、一緒に、楽しく」居心地よく過ごせるような場を提供していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことですべての職員が正しく認識しており、身体拘束を絶対にしないケアをしている。	○	身体拘束の禁止について、研修や勉強会で学んできた職員が他の職員に教えられるような場をこまめに設けていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支え、日中は玄関に鍵をかけなくてすむように配慮している。居室は昼夜を問わず鍵をかけず解放している。	○	今後ともよく理解し、取り組んでいく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全で自立した生活ができるよう環境整備に配慮して、利用者全員の所在は常に把握しているようにしている。	○	利用者の自発的な動きを妨げないよう干渉過多にならないよう気をつけながら今後とも把握を行っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険をともなう物品の使用に関しては職員がつきそうようにして危険を防ぐ配慮をしている。	○	今後とも配慮を怠らないようにしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	項目毎の事故防止五か条を掲げ常に職員一人一人が知識として頭にたたきこみ事故防止に取り組んでいる。	○	事故防止の為に今出来ることは何かを考えながら常日頃から取り組みを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルを常時掲示し、目を通すようにしている。 又、講習を受けてきた職員に施設において講習をしてもらっている。	○	今後とも町や地域で行われる研修、講習に積極的に参加して訓練方法を身につけていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については地域の勉強会に参加し市の職員、消防署の方の指導を受けている。	○	回覧等で回って来る町や地域主催の防災訓練に積極的に参加し、常に災害に備える心構えを取っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	口頭で、文書で、家族に説明し話し合っている。	○	家族からの意見も参考にしながら今後とも対応策について話し合っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見に職員が心がけ、発見時は職員が情報を共有し、対応し、又、日報に記録し徹底している。 わからない時は医師の指示を仰ぐ。	○	どんな小さなことでも報告するよう職員一人一人が心がけていられるよう徹底していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の目的、用法、用量等常に薬剤処方箋に目を通し確認している。 誤嚥防止し、医師の支持通り服薬出来るよう支援している。	○	今後も徹底していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防に心がけ、飲食物の工夫、運動して体を動かすよう働きかけている。	○	今後とも継続し、行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔内の清潔に心がけ、一人一人の力に応じた支援をしている。 歯科の訪問指導も週一回実施している。	○	食事を終えた後、それとなく歯みがきを促してみる等、自発的に歯みがきが行える方には行って頂くように、今後とも働きかけていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、栄養摂取量、一日の栄養バランスを考え一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。	○	今後とも継続し、行っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応の取り決めに従って実施している。	○	感染症の知識を職員全体が共有し、一人一人が予防対策を取れるよう今後とも徹底していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のため、台所、調理用具の衛生管理に努め、食材は安心して新鮮な物、又、管理については保管にも安全に気をつけている。	○	食事前の手洗いは必ず行い、調理用具は決められた場所に戻す等、当たり前のことを今後も確実にしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに鉢物を置いたり花を植えたりして家庭的雰囲気づくりを心がけている。	○	今後も継続し行っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な共用空間づくりに心がけている 季節に応じた壁面飾り、静かな音楽を流す等常に工夫している。	○	今後とも利用者と一緒に居心地のよい空間作りを心掛ける。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一人になったり、気の合った利用者同士で自由に過ごせるよう工夫、配慮をしている。	○	利用者の意思を尊重した場所作りを今後も心掛けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具生活用品を置き又、装飾品も家から持ってきた物を飾ったりして安心して過ごせるようにしている。	○	ホームを自分の家と思い、利用者が自分の居室を終の住処と思えるような、安心して寛げる場所を提供していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者一人一人の気持ちを聞き、室温等配慮し冷やしすぎ温めすぎがないよう配慮し換気は常に心がけている。	○	利用者の快・不快を敏感に感じ取ることを常に怠らぬよう、職員一人一人が心掛ける。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みの生活用品等を使って活動意欲を触発出来るよう働きかけている。 (掃除道具、園芸用品、生活用品等)	○	今後とも利用者の自発性を尊重し、環境作りを行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	暦、時刻、表示、掲示物を使って環境づくりをし、自立した暮らしが出来るよう配慮している。	○	職員から利用者に「今日、何日だった？」等の声掛けをし、利用者の周囲の事柄に関する関心を高め、利用者の生き甲斐につなげたい。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇、カーポートを利用して楽しんだり活動出来るように、季節に応じて野菜や花を植えている。	○	身近な四季を利用者が体感出来るような環境作りを心掛けたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の皆様が人として幸せに安心して日々を送っていただけるよう介護者は笑顔を絶やさず、また理念にもあるように「介護はこころ」を念頭にサービスにあたっています。元気に日々を過ごしていただけるように例えば食前の嚥下体操を行ったり体を使って運動することを習慣とし、毎日各々のテーマを決めて体操を行っています。

日々、家庭的環境の中で生きがいを持って穏やかに生活していただけるようにしています。